

渡辺復興大臣の岩手県訪問ぶら下がり記者会見録  
(平成30年11月12日(月)17:14~17:20 於)盛岡市)

1. 発言要旨

本日、青森県八戸市を初めとしまして、岩手県の洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町を訪問し、復興大臣としての御挨拶並びに現地視察を行ったところでございます。

洋野町では、ウニを初めとする地元産業の販売施設、久慈市では、震災の経験と教訓を風化させないための公園、野田村では、緊急的な避難場所の機能を持つ保健センター、普代村では、過去の津波被害を受け整備された普代水門、田野畑村では、昔の漁村を再現した観光施設、岩泉町では、診療所・役場支所・駅などの機能を持つ防災拠点施設を視察し、また、ここでは被災者3名の方とお話をする機会がありました。今回の視察を通して、復興が着実に進展していると改めて感じたところでございます。

また、普代村では水門によって、人的被害を免れたと伺い、先人の水門の整備にかけた思いに対して、改めて敬意を表したいと思っております。

他方、全国共通の課題である人口減少や高齢化のほか、産業・生業の再生などに課題があると伺いました。地域の活性化という観点から、取り組むべき課題があるというふうに認識をしたところでございます。

引き続き現場主義、そして、被災者に寄り添いながら、被災地の復興に全力で取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 大臣就任後、今回で3回目の訪問ということで、前回は岩手県沿岸南部の訪問がありました。本日は北部の方を見られたということなのですが、一通り被災地を見られた受け止めと伺いますか、所感をお願いいたします。

(答) まずは、被災地の状況をつぶさに視察をさせていただいた結果として、地域の復興は着実に進んでいるというふうに認識をしております。その被災地の復興に対しては、それぞれ地域差がある。そのようにも思います。この地域差をできるだけ埋めていかなければなりません。復興・創生期間の終了まで2年半ということになりますと、当然のことながら、その期間でできるものは最大限やり通していかなければならないという、そういう思いが改めてしたところでございます。地域の皆さん方、そしてまた、被災地の皆さん方と寄り添いながら、しっかりとやっていこうという、

新たな決意をしました。

(問) 他の被災県では一部ヒアリング等も行われている後継組織についてです。岩手はまだそういったヒアリング等はないのですが、これに関して、今後、復興庁として年度内にどのような予定がされているのか、大臣としてはどのようにお考えか教えてください。

(答) 復興庁としてはまだ行っておりませんが、県として実際に進めているというふうに認識をしております。復興庁からそういう形で指示をしておりますけれども、実際には県が行っております。

(問) そのように県が実施したのを踏まえて、復興庁としては、次、どういう手順でやっていければというふうにお考えでしょうか。

(答) 実際には、私たちはまず様々な政策課題に対しての進捗状況や取組状況についてもしっかりと確認をしていかなければなりません。この確認をした上で、方向性は今年度末までには進めていきたいというふうに思っております。

(問) 先程おっしゃった部分、復興は進んでいるというお話がありましたが、地域によってはかなり復興に差が出ていると思いますが、その残りの2年半で全力でやっていくということですが、その地域の復興への差を埋めるために、具体的にどういふふうに進めていくのかという、具体的なお考えがありましたら、お願いします。

(答) 基本的には、この復興を進めている地方自治体で知恵を出していただかなければならないなというふうに思っております。それを我々はバックアップしていくということでありまして、具体的に各自治体からどういふ状況であるかというお話はまだ、具体的な形で進めている話はお伺いしておりません。その復興・創生期間の終了までに、全力でやり遂げていきたいというのが、我々の考え方ではありますが、それと同時に、地域の被災地の皆さん方も、自治体も同じように進めていっていただきたいというのが私の思いであります。

(以 上)